

プロロジス、国内大手物流企業の専用物流(BTS型)施設として 「プロロジスパーク古河3」を開発

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(日本本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役社長:山田御酒)は、国内大手物流企業と約30,000㎡の賃貸契約を締結し、茨城県古河市において「プロロジスパーク古河3」を開発することを発表しました。

「プロロジスパーク古河3」はプロロジスのリピートカスタマーである国内大手物流企業の専用施設として開発されます。同物流企業は、関東広域をカバーする新拠点として「プロロジスパーク古河3」を活用する計画です。



プロロジスパーク古河3 完成イメージ

このたびの開発決定により、プロロジスがBTS型施設の集積地として開発を進めてきた「プロロジスパーク古河」プロジェクトが完結します。「プロロジスパーク古河1」は医薬品卸のスズケングループのBTS型施設として稼働中であり、「プロロジスパーク古河2」は日立物流ファインネクスト株式会社のBTS型施設として来月竣工を迎えます。また、県内では、先月26日に開通した「つくば中央IC」至近に、BTS型施設「プロロジスパークつくば」の開発を計画しており、入居企業を募集しています。

■ 開発地

開発地は、茨城県と都心部とをつなぐ新4号国道から至近に位置し、圏央道「五霞IC」からは約6km(約10分)の北利根工業団地内に位置しています。

圏央道「境古河IC」～「つくば中央IC」間の開通により、都心部から放射状にのびる東名・中央・関越・東北・常磐・東関東の6つの自動車道とつながりました。これにより、関東全域のみならず、東北方面や関西方面への広域配送が可能となり、東日本における広域拠点として期待されるエリアです。

■ 施設計画概要

「プロロジスパーク古河3」は、約35,000㎡の敷地に延べ床面積約30,000㎡の物流施設として開発されます。施設西側および東面の一部にトラックバースを配置し、荷捌きの効率化を図ります。敷地内には、乗用車駐車場・トラック待機場を十分に確保し、車両が周回できる計画となっています。

「プロロジスパーク古河 3」計画概要

名 称	プロロジスパーク古河 3
所 在 地	茨城県古河市
敷 地 面 積	約 35,000 m ²
計 画 延 床 面 積	約 30,000 m ²
着 工	2017 年 7 月
竣 工 予 定	2018 年 7 月

■ プロロジスの専用物流(BTS 型)施設

プロロジスは、これまでに、全国に 34 棟の BTS 型施設を開発してきました。また、「プロロジスパーク古河 3」のほかに「プロロジスパークつくば」「プロロジスパーク海老名 2」「プロロジスパーク神戸 3」「プロロジスパーク神戸 4」の開発を計画中であり、入居企業を募集しています。プロロジスは、今後もお客様の物流効率化のニーズにお応えすべく、物流施設の開発・運営を進めていきます。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
プロロジス 広報室 担当:古川
TEL: 03-6860-9107 / FAX: 03-6860-9020
E-mail: sfurukawa @prologis.co.jp